

平成27年度スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

受託者名	北海道	実施校名	東神楽町立東神楽小学校
学校のホームページアドレス	http://www.town.higashikagura.lg.jp/gakkou/higashikagura/H23higashikagura-kouzityu.html		

1 取組テーマ（中心となるテーマ：食と学力）

食育と学力・体力・運動能力の向上

（望ましい食習慣の定着化を図る食育と学力、体力・運動能力の向上との関連性を検証する研究）

2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置人数	1人
配置されていない場合の対応状況	

3 推進委員会の構成

- ① 北海道食育推進委員会
大学教授、北海道教育委員会 14 管内指導主事、実践校（校長、教頭、教諭、栄養教諭）、東神楽町教育委員会職員、生涯学習課職員、農政部職員、代表栄養教諭
- ② 東神楽町スーパー食育スクール事業推進委員会
東神楽町教育委員会教育長、実践校（校長、教頭、教諭、栄養教諭）、協力校（教諭）、連携機関（名寄市立大学教授ほか、（株）タニタ社員）、東神楽町管理栄養士、北海道教育委員会指導主事、東神楽町教育委員会職員

4 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
名寄市立大学	・児童の食事状況等実態調査の実施及びデータ解析 ・家庭と連携した望ましい食習慣の定着への助言
株式会社タニタ	・児童の体組成及び活動量の測定支援 ・「学力、体力・運動能力の向上」と食育との効果についてのデータ解析

5 実践内容

事業目標

北海道の児童生徒には、学力、体力・運動能力に憂慮すべき課題があることから、児童生徒一人一人に、将来、社会で自立して生きていくために必要な力を身に付けさせることができるよう、学校、家庭、地域、行政が一体となって、北海道民総ぐるみの取組により推進する、“ほっかいどう「学力・体力向上運動」”を行っている。この取組と併せて、栄養教諭を中心とした校内食育推進体制のもと、家庭と連携した「食に関する指導」を充実させる取組を実践し、生活や学習の基盤となる望ましい食習慣の定着化を図る。

さらに、「学力、体力・運動能力の向上」に向けた食育の効果について、大学・企業等の研究機関と連携しながら科学的データに基づいた検証を行うとともに、本事業の成果を全道に普及させ、食育の推進を図る。

本事業を通して、学年の発達段階に応じて次のような児童の姿を目指す。

【目指す子ども像】

- 低学年
 - ・好き嫌いせずに食べようとする子
 - ・朝ごはんをしっかりと食べようとする子
- 中学年
 - ・好き嫌いせずに残さず食べようとする子
 - ・健康に過ごすことを意識して、正しい生活習慣で過ごそうとする子
- 高学年
 - ・食事が身体に及ぼす影響や食品をバランスよく組み合わせる大切さを理解し、自らの健康・体調を維持しようとする子
 - ・生産者や自然の恵みに感謝し、残さず食べることができる子

評価指標

家庭との連携を強化した食育授業と個に応じた栄養管理を通じて、取組前後の調査結果及び前年度との比較による分析を行う。

- ・全国学力・学習状況調査の児童質問紙における否定的回答の減少
(前年度 5.5%→今年度 5.3%)
- ・持久性や敏捷性にかかわる種目(シャトルランや反復横跳び)の改善
(平均得点：前年度 7.3 点→今年度 7.7 点)
- ・家庭の食事内容の改善
(主食・主菜・副菜がそろった朝食をとっている児童の割合：
前年度 12.7%→今年度 19.7%)
- ・活動量の増加(事業開始時：1日平均歩数 7,060 歩→事業終了時 6,342 歩▲)
- ・児童向け意識調査や保護者向け意識調査における肯定的回答の増加
(前年度 95.1%→今年度 85.3%▲)
- ・教職員向け意識調査における肯定的回答の増加
(前年度 87.5%→今年度 93.0%)
- ・学校給食の残食量減少(残食率)
(事業開始時 事業終了時)
(主食 21% → 14%)
(温食 20% → 17%)
(主菜 6% → 5%)
(副菜 18% → 26%▲)

評価方法

次の調査を事前事後の2回実施し、結果の変化を分析する。

- ・学力テスト（NRT、CRT、北海道教育委員会によるチャレンジテスト）
- ・新体力テスト
- ・食事状況等調査
- ・給食残食量調査
- ・体組成および活動量の測定

次の調査を事後に1回実施し、前年度との結果の変化を分析する。

- ・保護者向け意識調査
- ・児童向け意識調査
- ・教職員向け意識調査

評価指標を向上させるための仮説(道筋)

学力・体力の向上は、授業改善や学校・家庭・地域が連携した学習・運動習慣の定着を図るなど、学力や体力の向上に向けた取組を充実させることのほか、食に関する指導を充実させ、児童に望ましい食習慣を定着させることにより、学ぶ意欲やよりよく生きようとする思いを高めることができることによって更なる向上が図られるものとする。

そのため、学校・家庭・地域において、それぞれ次の取組を重点的に行う。

【学校】

- ・「東神楽町食育教科書（副読本）」を活用し、家庭との連携を強化した栄養教諭と学級担任のTTによる食育授業の充実
- ・身体や活動量に応じた学校給食の提供
- ・教職員と連携した継続的な給食指導
- ・農家での体験活動を取り入れた授業の充実
- ・学び直しの場と時間の確保
- ・チャレンジテストやサポート問題の反復した活用
- ・体育授業の改善
- ・1校1実践の取組（マラソン）

【家庭】

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」運動の徹底による生活習慣の改善
- ・食事状況調査の結果のフィードバックによる朝食に重点を置いた食事内容の改善
- ・家庭学習の充実
- ・活動量を増加させる取組（家庭への啓発）
例：マイカーによる送迎の自粛の呼びかけ、外遊びの奨励

【地域】

- ・生涯学習関係機関等による学校休業日における食に関する体験型プログラムの企画

実践内容

- 4月21日 全国学力・学習状況調査（児童質問紙）の実施
- 4月27日 学力テスト（NRT）の実施 【1回目】
- 6月 食育月間の取組（給食指導時のミニ講話等）
- 6月16日 保護者向け事業説明会の開催
- 6月下旬～ 学童健診（血液検査等）の実施（希望者）
- 6月下旬～ 新体力テストの実施 【1回目】
- 7月1日 食育授業（2年生）「牛にゅうのひみつ」の実施
- 7月6日 第1回SSS推進委員会の開催
- 7月7日 体組成の測定 【1回目】
- 7月中旬 活動量の測定 【1回目】
- 7月 学力テスト（チャレンジテスト）の実施 【1回目】
- 8月3日～ 教員向け農村ホームステイ事業の実施
- 9月2日 食育授業（2年生）「野さいパワーはっけん！」の実施
- 9月中旬 食事状況調査の実施 【1回目】
- 9月28日 第2回SSS推進委員会の開催
- 10月15日 食育授業（5年生）「5大栄養素を知ろう」の実施
- 10月23日 児童向け食育講話の実施（4～6年生）
- 10月26日 保護者向け食育講演会の開催
- 10月27日 食育授業（4年生）「食べ物の働きを知ろう」の実施
- 10月29日 食育授業（3年生）「体の健康と手洗い」の実施
- 10月30日 スーパー食育スクール事業全国連絡協議会への参加
- 11月 学校給食摂取基準の策定
- 11月9日 食育事業（4年生）「かむことのよさを考えよう」の実施
- 11月中旬 新体力テストの実施 【2回目】
- 11月25日 食育に係る研究大会の開催
～ 公開授業 食育授業（3年生）「感しゃして食べよう」
- 11月27日 食育授業（1年生）「きゅうしょくができるまでをしろう」の実施
- 12月～ 新基準に基づいた学校給食の提供の開始
- 12月1日 学力テスト（CRT）の実施 【2回目】
- 12月3日 体組成の測定 【2回目】
- 12月3日 食育授業（1年生）「おはしめいじんになろう」の実施
- 12月 学力テスト（チャレンジテスト）の実施 【2回目】
- 12月 児童向け意識調査の実施
- 12月 保護者向け意識調査の実施
- 12月 教員向け意識調査の実施
- 12月中旬 活動量の測定 【2回目】
- 12月中旬 食事状況調査の実施 【2回目】
- 12月中旬～各調査の分析及びレポートのまとめ
- 12月21日 第3回SSS推進委員会の開催
- 1月25日 食育授業（6年生）「朝ごはんの大切さについて考えよう」の実施
- 1月25日 スーパー食育スクール事業全国連絡協議会への参加
- 2月16日 北海道食育推進委員会の開催
- 2月22日 第4回SSS推進委員会の開催
- 2月下旬 事業報告書の納品・発送
- 随時 情報発信、学力・体力向上に向けた取組の実施

6 成果

○ 「食育教科書（副読本）」を活用した食に関する指導の全体計画及び年間指導計画を作成し、計画的に指導することで、児童の食に対する関心や実践力を高めることができた。



○ 栄養教諭と学級担任のTTによる2年生の食育授業「牛にゆうのひみつ」及び「やさいパワー発見」において、「牛乳には、こんなにすごい働きがあるんだな。」「野菜は、苦手でも、やっぱり食べなければいけない。」などの感想が見られた。さらに学級通信や食育だよりにより、授業の様子を伝え、家庭においても振り返り実践を促した結果、給食の時間に次のような児童の変容が見られた。

○ 給食の時間の「食材に関わるミニ講話」を通して、食事が身体に及ぼす影響を考え、食品をバランスよく組み合わせて食べることの大切さへの気付きにつなげることができた。

○ ホームページや学級通信、月1回発行の「食育だより」を通じて、食育授業の様子の掲載や食に関する情報提供を行うなど、学校から家庭に対する啓発活動を積極的に取り組んだ結果、7月に実施した「活動量計の取組」では、協力の状況が89%であったのに対し、9月の「食事状況調査」では、94%まで上昇しており、保護者の食育への関心が高まった。

○ 学校給食における残食率は、事業開始時と終了時の比較で、副菜の残食率は増加したものの、主菜、副菜、温菜では1～7ポイント減少（改善）した。食育授業及び給食指導等を通じて、児童の食への関心や食べる意欲の高まりなどによって全体的に残食率が減少（改善）した。

■学校給食における残食率の変化

項目	事業開始時	事業終了時	増減
主食	21%	14%	7ポイント減少
温食	20%	17%	3ポイント減少
主菜	6%	5%	1ポイント減少
副菜	18%	26%	8ポイント増加

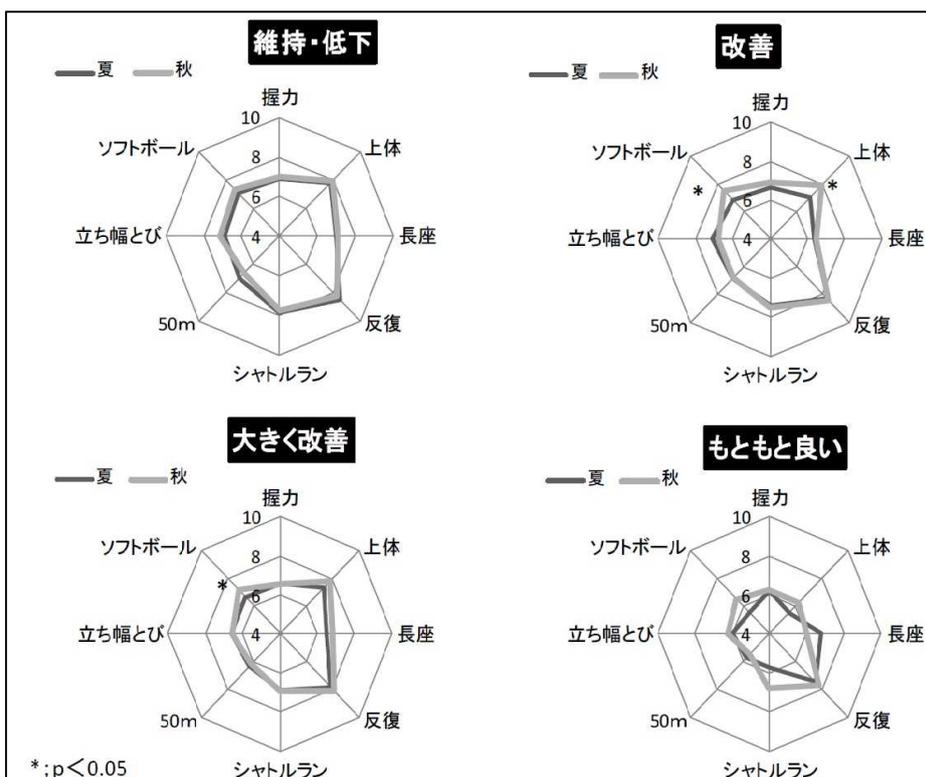
○ 家庭での食事の状況として、主食・主菜・副菜がそろった朝食をとっている児童の割合は、平成26年度は12.7%であったのに対し、平成27年度は19.7%であり7ポイント上昇した。また、9月と12月に実施した食事状況調査のデータをもとに、食事の量とバランスから食事スコアを算出し、変化を確認したところ、調査した半数以上が改善した。様々な場面で情報発信をしたことや各種調査結果を家庭にフィードバックしてきたことが着実に実を結んでいる。

○ 食事状況の変化と運動能力の関係性を明らかにするため、9月調査時の食事スコアから12月調査時の食事スコアの上昇率から4群に分け、夏と秋に実施した新体力テストの総合得点及び項目別得点との関連性を分析したところ、総合得点及び項目別得点ともに「維持・低下」群では変化は見られず、「改善」、「大きく改善」、「もともとよい」群では大きく向上している結果が得られた。

■ 食事スコアの上昇率と新体力テストの総合得点

食事スコアの上昇率による分類	新体力テスト夏の平均値	新体力テスト秋の平均値	夏から秋の変化量
維持・低下	58.9	59.1	0.2 増
改善	56.6	58.2	1.6 増
大きく改善	54.7	56.1	1.4 増
もともと良い	49.0	51.3	2.3 増

■ 新体力テスト項目別得点（夏と秋の比較）



7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

- ホームページ
 - ・実践校における食育の取組の様子をホームページで随時発信している。
(東神楽町公式ページのトップ画面に『東神楽小学校スーパー食育スクール事業』のバナーからリンクする方式によりアクセスを容易にしている。)
- 「食育だより」、「学級通信」
 - ・本年6月から栄養教諭による「食育だより」を毎月1回のペースで発行し、保護者に配付している。また、各担任が作成する学級通信にも食育の取組や家庭での働きかけ等について掲載している。
- 校内での啓発資料の掲示
 - ・来校する保護者や地域の方々を目に触れるよう、校内の掲示板に取組の様子の写真や報道記事を掲示している。

8 今後の課題

- 望ましい食習慣の定着化を図るための家庭との連携の充実に向けて、保護者への啓発として配付物やホームページなどによる情報発信や、体組成や活動量、食事状況調査等の結果のフィードバックなど行ってきた。この結果、保護者向け意識調査における情報提供等を評価する意見があった一方で、肯定的回答の割合が昨年度に比べ減少したことから、情報の伝達の方法や媒体、興味・関心を高める表現方法を工夫する必要がある。
- 肥満や痩身傾向のある児童への指導を担当、栄養教諭、養護教諭が連携して、個別指導の充実に図るとともに、家庭と一体となってより効果的に進めていく必要がある。
- 給食は、全校児童がランチルームに集まり縦割りグループにより行っているため、個に応じた配膳を行う難しさがあった。今後は、限られた人員と時間の中で効率よく配膳するための工夫や量を調整する方法を検討する必要がある。
- 北海道では自動車での移動が多い特徴があることから、児童の活動量（歩数）が少なく、特に冬場には顕著に減少していることが測定により明らかとなった。健やかな成長のためには、食事とともに運動が不可欠であることから、学校や家庭、地域において活動量を増やす取組を広げていく必要がある。また、行政機関と連携を図り、スポーツ施設を効果的に活用するなど、運動をしやすい環境を整えていく必要がある。